



2月16日（木）の夜、坂祝町中央公民館にて、坂祝町の子育て環境整備を考えるワークショップ「つどい場 ツクリバ」の第7回を開催しました。出席者は、町民及び事務局合わせて23名でした。

前回からおよそ4か月ぶりの開催となったこの日、冒頭の教育長あいさつのもと、ワークショップの成果を踏まえ、この間にとりまとめた「基本構想（案）」を確認しました。そして、この案についての手応え（イーネ！）や改善提案（こうしたら！）について、全員で意見交換。

さらに、今後の流れと私たちにできることをスライドで共有しながら坂祝の未来に向けて熱い思いを語りました。

7 「構想（案）の確認＆今後に向けて」

2017/2/16（木） 19：00～21：00 坂祝町中央公民館 2階 研修室

1. 高橋教育長よりあいさつ
2. 共有「確認しよう！基本構想（案）」
3. 全体トーク「ここがイーネ！&こうしたら！～今後に向けて」

1 あいさつ（高橋教育長より）

前回のワークショップのあと、12月7日の議会（福祉文教委員会）では、行政として、子育て拠点施設は、中央公民館周辺エリアで考えていることをお伝えしました。これまでのワークショップで話し合ってきた多世代交流や今後の拡がりを考えると、そのエリアが最適地だと考えたからです。12月8日には、三品陽平さんと3組の親子が、子育て支援施設の設置を



求める署名を町長に届けてくださり、みなさんの思いが伝わってきて胸が熱くなりました。

2月9日には作成した基本構想をもって、議会（全員協議会）に臨み、予算・工程・必要機能など、できる限り細部に渡って報告し、議員さんから多くの質問をいただきました。

2月23日に再度全員協議会を開いて頂けるので、誠心誠意を持って質問にお答えする準備を、今しているところです。

「至誠天に通ず」と言います。私たちは、真心を尽くしてあらゆる努力をしていきたいと思っています。

署名を渡す三品さん→



2 共有「確認しよう！基本構想（案）」

● 子育て支援ビジョンについて

坂祝町の子育て支援に対する考え方の基本は、「こどもたちに未来を」です。



親・子・孫の代まで、坂祝町に住み、子育てし続けたいと思える「まち」を目指して、子育て支援・子どもの健全育成を重点施策と位置づけます。また未来への投資と考え「子育て支援拠点施設の建設」を推進します。

● 建設地について（こども課 伊藤課長より）

建設場所は「中央公民館周辺（A案）」と「コミュニティセンター周辺（B案）」の2か所を想定して比較検討したところ、ビジョンや基本理念と合っているか、子育て環境にふさわしいか、拡張性はあるかなど、多くの点でA案がよりふさわしい一方で、小学校との近接性、建設費や期間の点で課題があります。

行政としては、財政状況を踏まえ、行政経営に影響がない範囲での建設が可能と考え、A案を進めたいと議会に説明しているところです。



A案：中央公民館周辺



B案：コミュニティセンター周辺

全体トーク「ここがイーネ！&こうしたら！～今後に向けて」

基本構想案についての手応えや改善提案について、全員で意見交換をしたあと、坂祝の未来について語りました。



基本構想は素晴らしい！

- 基本構想は、これまでの WS で出た意見も網羅され、現場のニーズにも合った素晴らしいものだと思います。

多世代が利用できる施設に

- A 案は、一般の人が使える機能をもっと具体的にしながら幅広い人達からの支持が得られると思います。
- 町民全員がハッピーになれるもの、みんなが納得するもの、みんなが夢を描けるものにした方がいい。
- 図書、ギャラリー、学習室などの「あったらいいな」機能を今後入れていける拡張性も考慮して考えられるといい。
- 自分は子育て卒業だと思っていたが、娘がいるので、おじいちゃんと孫で楽しめるようなものになったらいいな。
- 住民の方が活躍できる施設、どれだけ使ってもらえるかで施設の価値が出てくると思います。

広がりのある敷地（A案）がいい！

- A 案がとても素敵で、WS でやってきたみんなの「想い」が「かたち」になっているようですごうれしかった。
- A 案の予算が高く、町の財政的に不安だなと思ったが、どうせつくるのならいいものをつくった方がいい。そうすれば坂祝町の魅力になるし、坂祝町として PR できます。
- 多世代交流、自然を活かした施設という意味でも、広い場所がいい。坂祝ならではの場所がいいと思います。
- 「巻きコミュニケーション」の話を聞き、ソフト面がすごく重要だと感じた。現場にいて、子育て世代のお母さんとの関わり合いが多い。そういう人達を今後、地域で頑張っている人たちとつなげたい。場所があれば、あればあるだけ私の妄想が現実に近づく気がします。

その他

- A 案は理想的だが、B 案もコンパクトで使いやすいというメリットがある。両方のいいとこどりをできたらいい。
- A 案は、小学校から離れるのが一番のネック。町民バスをうまく利用できるようにするといい。
- お金の使い方を含めて、この話はぶっ飛び過ぎ。将来、孫たちから「おじいちゃん、とんでもないものを建てたね！」と言われぬように、もうちょっと皆さんで考えて練った方がいいのかなと思いました。

「巻きコミュニケーションのすすめ」 ファシリテーター加藤より

みんなに使われるかどうかは建物の力だけじゃありません。どんな人がいて、どんなサービスが提供できるのか…ソフトが弱ければ、立派な建物もただの「ハコモノ」です。

これから大事なことは、人を巻き込むこと。そのためのコツを2つ紹介します。1つは「インサイドアウト」。自分を変えられないことを悩んだり、人のせいにするのではなく、変えられること、自分のやれることを一生懸命やることで何かが変わる。

もう1つはトムソーヤの「ご機嫌なペンキ塗り」。罰として、おばさんから塀にペンキを塗るように言いつけられたトムが、楽しそうにペンキを塗ることで、友達が次々にやってきて喜びでペンキを塗り全部塗れましたというお話（笑）。正しいから、というだけでは人の気持ちは動かせない。相手にとってオトクだと思わせるような訴求効果があることが重要です。



みなさんの役割はもっと他の人を巻き込んでいく事かなと思います。「他人事」じゃなく「自分事」の人を増やすことで、坂祝町の「未来」を変えられるかもしれませんね！



ひとことアンケートより

未来に向けての話ができたのでよかった。もっとこういった動きの話に参加したい／ワークショップに参加して、坂祝町のことや子育て支援についていろいろ考えるきっかけになりました／建物の形よりも、その建物を今後どのように使っていくのが重要だと思いました／イメージを具体的に形にすることで、さらに夢が広がりました／人を惹き付けるには自分から訴えかけることが大切だと感じました ほか

坂祝町教育委員会 こども課

電話：0574-26-7151

FAX：0574-26-7097

E-mail：kodomo@town.sakahogi.gifu.jp

